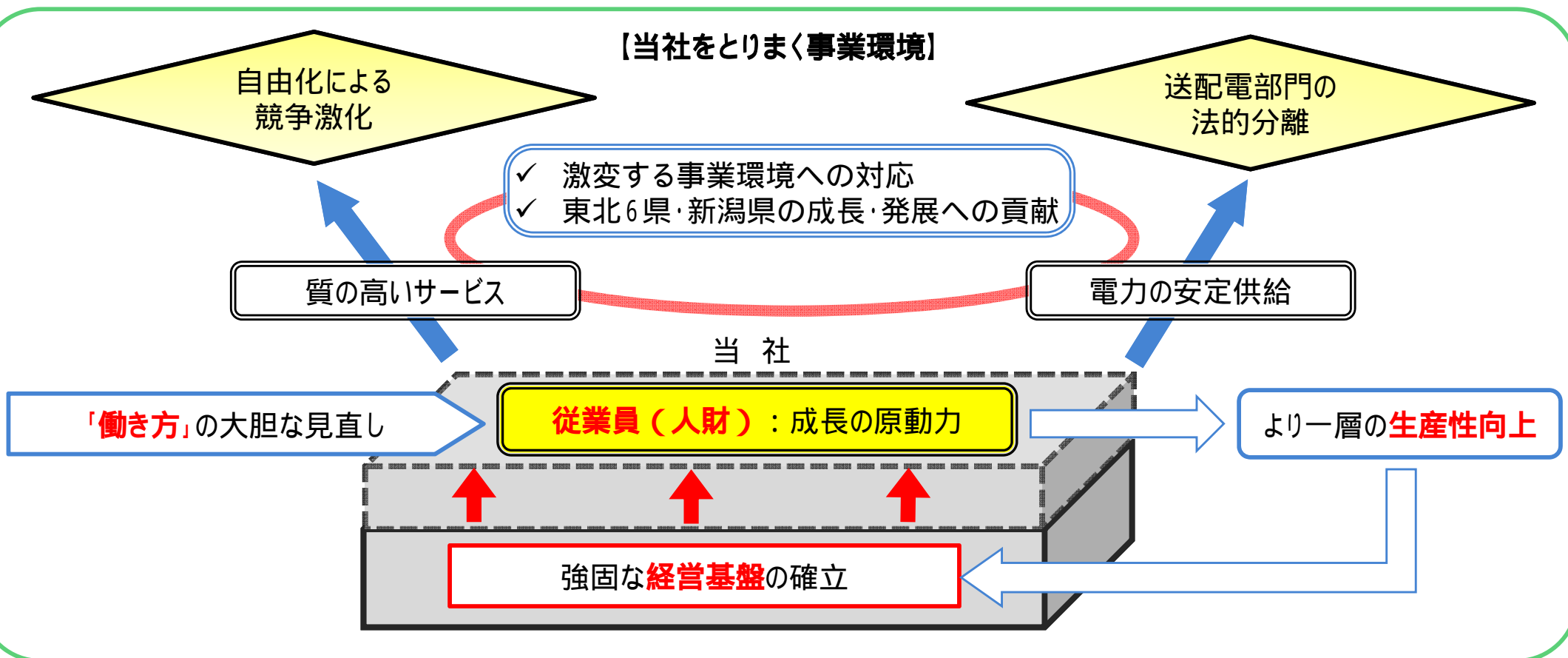


さらなる生産性の向上に向けた  
「働き方改革」への取り組み

2018年9月27日  
東北電力株式会社

# 1. 当社をとりまく事業環境と強固な経営基盤の必要性

- 当社は従来から、当社の成長の原動力は「従業員（人財）」であるとの基本的な考え方のもと、従業員の健康や働きがいを重視しながら、業務の効率化や勤務制度の拡充などに取り組んできた
- 電力小売全面自由化による競争の激化や、2020年4月に予定している送配電部門の法的分離など、当社を取り巻く事業環境は現在進行形で大きく変化
- 人員や時間が限られる中、今後も質の高いサービスの提供や、電力の安定供給を通じて、東北6県と新潟県の成長、発展に貢献するため、「働き方」について大胆な見直しを行い、より一層の生産性向上を図る必要がある
- 本年4月に社長を委員長とする「働き方改革推進委員会」を設置し、「働き方改革」の具体的な取り組みについて検討を重ねてきた



- 「働き方改革」を進めるにあたり、全社一体となって働き方を見直す、皆で推し進めるとの思いを込め、スローガン「みな、おす、ちから。」を設定
- 「業務の削減・効率化」、「業務品質の向上」、「ワーク・ライフ・バランスの実現」の観点からさまざまな取り組みを実施
- 取り組みの好循環により、「従業員一人ひとりがイキイキと働く元気な会社」を実現し、「お客さまや地域の皆さまに、信頼され選ばれる会社」を目指す

【働き方改革スローガン】 「みな、おす、ちから。」（働き方を見直す / 皆で推し進める）  
～「より、そう、ちから。」働き方改革編～

「働き方改革」を全社一体の大きな運動として進めることで、「より、そう、ちから。」の実現にもつなげていく。



- ✓ 従業員一人ひとりが、業務の削減・効率化、業務品質の向上、ワーク・ライフ・バランスの実現に取り組んでいく
- ✓ 従業員一人ひとりがイキイキと働くとともに、生産性の向上を図ることで、お客さまや地域の皆さまに、信頼され選ばれる会社を目指す 「人」の面からも強固な経営基盤を確立

## 業務の削減・効率化

## 業務品質の向上

### RPAやAIなど新技術活用による業務効率化

- ✓ R P A（ロボティック・プロセス・オートメーション）やA I（人工知能）の活用により、大量・定型業務の自動化を図り業務を効率化

R P A：これまで手作業で行ってきたパソコン上での仕事を自動化し、業務の効率化を図る取り組み。

例

- R P A：データの集計や帳票出力に活用（今後、対象業務・事業所をさらに拡大）
- A I：社内の労務関係手続きの問合せへの活用（今後予定、右図参照）

### これまでの働き方の見直し・棚卸し

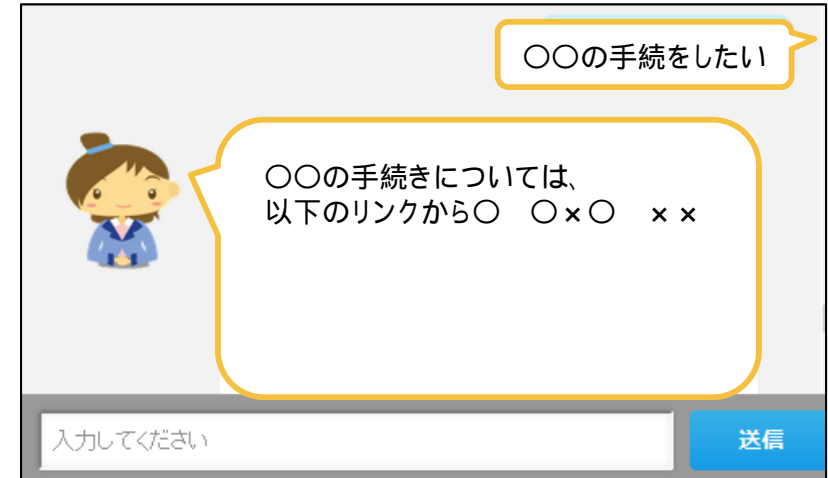
- ✓ 資料のペーパーレス化や仕事の進め方、社内ルールの見直しなどによる業務量の削減

例

- 会議資料のペーパーレス化（紙資料は原則配付せず）
- 会議運営の効率化（出席者を厳選、議事録の簡略化等）
- 立ち会議の実施（右図参照）・個人集中ブースの設置

### 業務改善提案や自己啓発を支援する仕組みの活用

- ✓ 従業員からの業務改善提案を広く吸い上げる制度、従業員のスキルアップを支援する仕組みの活用



[社内問合せにおけるAIチャットボットの活用]



[立ち会議の様子]

### ワーク・ライフ・バランスの実現

#### 在宅勤務制度の導入

10月より導入

- ✓ 育児や介護を行う社員を対象に、在宅勤務制度を導入（週1回、月4回まで）

#### フレックスタイム制度の拡大

10月より拡大

- ✓ フレックスタイム制度（下図参照）の適用対象を研究部門勤務者から本店、支店、送配電カンパニー支社、東京支社、東京事務所勤務者まで拡大



[フレックスタイム制度の概要]

- コアタイム：必ず勤務する時間
- フレキシブルタイム：始業および終了時刻を各人が決定

#### 勤務間インターバル制度の導入(推奨)

10月より導入(推奨)

- ✓ 勤務終了から次の勤務開始まで十分な休息時間（9時間）を確保

#### 【「働き方改革」の定着(持続的な取り組みの実現)に向けて】

- ✓ 経営層から全従業員に対してメッセージを発信し、意識改革を図る
- ✓ 従業員の健康・やりがい・働きがいにも注目しながら、取り組みの効果などについて、継続的にモニタリングを実施。PDCAを回しながら、確実な成果につなげていく
- ✓ 引き続き「働き方改革推進委員会」のもと、新たな施策の展開も含めて、検討を重ねていく